



それぞれの課題解決について

坂間 正昭 議員

### ツインシティ整備の推進

**問** 土地区画整理事業や公共下水道整備、相模小学校建設の進捗状況を伺う。

**都市整備部長** 今年度末には総事業費の約87%を執行する予定である。公共下水道は下水道管の敷設などを進めており、全体延長の約86%が進捗している。相模小学校は今年12月の完成を予定している。

**問** 南北都市軸の新しい公共交通の協議状況を伺う。

**都市整備部長** バス事業者などと交差点の道路改良について調整している。連節バスは、バス事業者や厚木市と、公共交通需要の共有や走行ルートの課題解決に向けた協議を進めている。

**問** 経路についてはどのよう

な検討をしているのか。

**交通政策担当部長** 平塚駅から国道129号へ出るルートとして、四つ角を右折するルート、宮の前の交差点を右折するルート、市役所前の交差点を右折するルートを調整している。

**問** まちびらきはいつごろを予定しているのか。

**都市整備部長** できれば令和4年度には開催したいと主催者からは聞いている。

**西部地域のまちづくり**

**問** クラインガルテンなどの実現化に向けた具体的な検討をどう進めるのか。

**まちづくり政策部長** 基礎調査の結果や、地域が作成した吉沢地区の将来構想を基に検討を進め、地域、学術機関、土地を所有する企

### 可決した意見書

議員から、次の意見書が提案され、全員異議なく可決しました。ホームページには全文を掲載しています。

#### 子どもたちにゆたかな学びを保障するために、教職員定数改善と教育予算の増額、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書（抜粋）

昨年から続く感染症対策は、教職員が子どもたちと向き合う時間の確保を困難なものにしています。加えて、新型コロナウイルス感染症が子どもの心へ与えている影響は大きく、現場教職員からは子どもたちの異変に対する心配の声が聞かれます。しかし、教職員の多忙化は深刻であり、子どもたちに向き合う時間の確保にもつながるスクールサポートスタッフやICT支援員、子どもたちに様々な視点からかわるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、学校を支えるスタッフの配置は不十分な状況です。

よって、次の事項について配慮されるよう、強く要望いたします。

- 1 中学校での35人学級を早急に実施すること。また、30人学級の実現に向けて検討すること。
- 2 学校の働き方改革・長時間労働の是正を実現し、教職員が子どもと向き合う時間を確保するために、加配の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善を推進すること。
- 3 スクールサポートスタッフやGIGAスクールサポーター、ICT支援員等の配置の拡充のための必要な財源の保障を行うこと。
- 4 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元すること。

業及び本市の4者で合意形成を図る。短期的には、収穫体験農園の開設など、将来的なニーズの把握につながる取り組みを地域と連携して進める。

**問** 運営や活動範囲の拡大には法人化などの仕組みづくりが必要ではないか。

**まちづくり政策部長** 柔軟な事業展開ができるなどの利点も多いため、法人化は有効な手段と考えている。

### 神奈川大学の移転

**問** 移転が及ぼす影響をどう捉えているのか。

**企画政策部長** 本市との交流事業をはじめ、消費活動の縮小に伴う経済面や、地域の公共交通、生活環境などに及ぼす影響が見込まれ、移転は市全体の課題と捉えている。何らかの形で大学としての継続を要望するとともに、移転後の利活用に関する情報を求めている。得られた情報は地域と

共有し対応を検討する。

**問** 大学に残ってほしいというのは地域の大きな要望である。市は、大学と地域それぞれと定期的な連携を図っていかねければならないと思うが、考えを伺う。

**企画政策部長** 大学側でも何かしらの考えを進めてもらっていると考えている。粘り強く働き掛けを続けていきたい。

### 農福連携事業について

**問** 本市が取り組む農福連携の考え方を伺う。

**産業振興部長** 高齢化や担い手不足が懸念される農業と、障がい者の就労支援の推進などに取り組み福祉の連携で、農業と障がい福祉の充実や課題解決につながるものと考えている。

**問** 県では農福のマッチングを育成し、令和5年度からの自走化に取り組み事業を

実施している。本市の自走化に向けた考え方を伺う。

**産業振興部長** 以前、関係各課による農福連携プロジェクトを実施し、契約書のひな型など基礎的なものはできているが、農家と福祉事業所がマッチングする

仕組みができていない。県の事業で育成されたコーディネーターを活用し、自走化を目指したい。

### このほかの質問

**地域コミュニティ活動の創出** 青少年育成への活動支援や

青年育成人件費

1,608万円

20万円

1億7,765万円

3,909万円

新型

ワクチン

接種

加速化

### 請願・陳情を市議会へ

皆さんの意見や要望を議会に伝え、市政に反映させる方法として請願と陳情があります。

請願は、紹介議員を必要とし、提出後は所管の常任委員会などへ付託して審査します。その後、委員会審査の結果を本会議へ報告し、議会としての採択、不採択などを決定します。

陳情は、請願と同じような性格のものですが、紹介議員を必要とせず、提出後は議会運営委員会でその取り扱いについて協議します。



### 清風クラブ 所属議員



数田 俊樹 議員



佐藤 貴子 議員



諸伏 清児 議員



須藤 量久 議員



黒部 栄三 議員

実施している。本市の自走化に向けた考え方を伺う。

仕組みができていない。県の事業で育成されたコーディネーターを活用し、自走化を目指したい。

### 新型コロナウイルスワクチンの接種加速化に係る補正予算を可決

新型コロナウイルスのワクチン接種に関して、65歳以上の高齢者接種を7月末までに完了させるため、「平日に平塚市役所での集団接種」「レモンガススタジアム平塚での集団接種」「土・日曜日に保健センターでの集団接種の枠拡大（時間延長・医師増員）」の3つの取り組みが実施されることになりました。それに伴い、関連経費の2億3302万円が補正予算として計上され、今定例会中に追加議案として提出されました。

議案の提出に当たっては、その重要性和緊急性を鑑み、会派代表者への事前説明や議会運営委員会における詳細説明が求められました。議員からは、「重要な予算なのでぜひ賛成したい。希望する人がしっかりと接種できるように進めてほしい」「総合計画の実施計画と整合をとって進めることも必要ではないか」との意見があったほか、打ち手の確保状況や市民への周知方法についても質問がありました。さらに、今後は市民や議会へき

め細かく情報提供していくよう要望がありました。

本会議第5日目に追加議案が提出され、質疑では、「接種を希望しない人にも配慮しながら加速化を進めてほしい」「予約状況をリアルタイムに発信する仕組みをつくって接種をスムーズに進めてほしい」との意見があったほか、8月以降の接種に関する詳細などが問われました。

本議案は、初日に提出されたワクチン接種関連の補正予算に追加計上する内容ですが、迅速な対応が必要であることから、初日に提出された議案の議決が行われる最終日を待たず、第5日目に即日採決が行われ、全員異議なく可決しました。

#### 【ワクチン接種を加速化するための経費の内容】

新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業	3,909万円
新型コロナウイルスワクチン接種事業	1億7,765万円
休日・夜間救急医療推進事業	20万円
人件費	1,608万円